

東電非常災害時訓練視察概要

視 察 場 所	東京電力柏崎刈羽原子力発電所（緊急時対策室・発電所構内）
視 察 日 時	平成20年3月19日(水) 9:30～12:40
視 察 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常災害対策本部における初動対応訓練（緊急時対策室） ・ 火災対応・消火訓練（4号機付近屋外） （自衛消防隊による消火訓練・公設消防との合同訓練） ・ 広報車による広報訓練（発電所構内） ・ 本店派遣要員の移動訓練（発電所構内ヘリポート）
参 加 者	<p>－委員－ 新野・浅賀・金子・佐藤・高橋(武)・高橋(優)・武本・牧・ 宮島委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9名</p> <p>－随行者－ 東京電力 守GM・阿部副長・杉山副長</p> <p>－事務局－ 柏崎原子力広報センター主査 木村</p>

〈視察後の質問・感想〉

- 初動対応訓練
 - ・ 初動対応訓練は準備された事とは言え見事だった。3分間で各部署への確認をとりながらの指示が終わっていた。そして、15分後にはFMピッカラ、プレス、広報車等の広報文の立案確認が終了していた。
- 派遣要員の移動訓練
 - ・ 極めて当然なことである本社幹部が、ヘリコプターで発電所に来ることが儀式化されているようであまりいい感じではなかった。
 - ・ 災害時はヘリコプターをすぐに手配できるのか。→（東電）新日本ヘリコプターという会社と契約しているので、災害時にもすみやかに手配できる。非常災害時はヘリポートの利用に関する許可はいらない。
 - ・ ヘリコプターで東京から来るのは今日が初めてか。→（東電）ヘリコプターで初期対応支援チームを派遣する訓練は柏崎では初めて。
- 広報訓練
 - ・ 広報車のスピーカーは10wか20wということだが、町内でもスピーカーを使用した際に25wでも足りないと感じた。災害時はもっと容量の大きいものに変えたほうがいいのか。消防署のハンドマイクは大きい音で聞こえてよかった。

- ・ 障害物がなければ聞こえるが、様々な場合を想定する必要がある。
 - ・ 広報車の流すメッセージの中に、数回、東京電力という言葉を入れてもらったほうがよい。そうでないと情報元がわかりにくい。
 - ・ メッセージはできるだけ簡潔にもらったほうが分かり易い。
- 消火訓練
- ・ 消防車が現場に着いたら即、消火できるようにならないといけないと思う。→（東電）消防車の現場到着後、状況を確認の上、消火方法等を決定するため、若干の時間が必要である。
 - ・ 消防車が走っているときに本部と連絡をとるべきで、水か泡か、即、消火ということでない訓練にもならない。
- 全体的感想
- ・ この視察が第一歩であろうが、今後色々なパターンの複合災害や過酷事故も想定して、特に他機関との情報交換や連携にも重きを置き、繰り返し行ってほしい。
 - ・ 事業者として災害を想定してということもあり、今までの行政が行う防災訓練と違い、真剣に取り組んでいるという印象を受けた。中越沖地震で大きな被害を受けたということも、その後押しをしているのではないか。
 - ・ 一言で言うなら、行政での訓練と違い、発電所内の日常業務上の想定で緊張感が伝わってきた。更に、昨年7月16日より1年以内に防災訓練を計画、実施した事にも大きな意味がある。
 - ・ 東京電力の独自訓練とはいえ、拠点のある保安院が単なるお客なみの参加でいいかどうか。いかなる場合も対応に関与すべきではないか。
 - ・ 災害は予測出来ないし事故はあってはならないが、万全を期して備えていれば、免れる事も1つや2つ出てくると思う。私達の生活も同じである。『想定外』と言い逃れしなくてよい様に。